

以下の問題は、あなたの知的好奇心、観察力、洞察力、発想力および文章表現力などを評価するためのものです。問1～問3のすべてについて、各解答用紙に解答しなさい。

問1

次の文章は、ハンガリー生まれの経済人類学者カール・ポラニー（1886-1964）が第二次世界大戦終結前の1944年に、市場メカニズムに徹底的に依拠した経済社会がもたらす諸問題・矛盾を指摘した主著『大転換』の一部です。これを読んで、あなたが感じたことを21行以上30行以内で記述しなさい。

決定的に重要な点は、以下のことである。すなわち、労働、土地、貨幣は生産の本源的な要素であって、他の商品と同様にそのための市場が形成されなければならない。実際これらの市場は、経済システムの絶対的に欠くことのできない部分を構成する。しかし、労働、土地、貨幣は、明らかに商品ではない。売買されるものはいかなるものであろうと、販売のために生産されたものでなければならないという公準は、労働、土地、貨幣についてはまったく当てはまらない。換言すれば、商品の経験的な定義からするとこれらは商品ではないのである。労働は、生活そのものの一部であるような人間活動の別名にほかならず、したがってそれは、販売のために生産されたものではなく、まったく違う理由で生み出されたものである。また、その活動を生活の他の部分から切り離したり、蓄積したり、転売したりすることもできない。同様に、土地は自然の別名にほかならず、人間によって生産されたものではない。最後に、実際の貨幣は、単に購買力の表象にほかならず、一般にけって生産されたものではなく、銀行あるいは国家財政のメカニズムによって存在するようになるものである。これらのいずれもが、販売のために生産されたものではない。労働、土地、貨幣を商品とするのは、まったくの擬制（fiction）なのである。

（カール・ポラニー著/野口建彦・栖原学訳『（新訳）大転換 市場社会の形成と崩壊』東洋経済新報社、2009年より）

注

公準・・・ある理論体系を演繹^{えき}するための基礎として承認を必要とする根本命題。要請。公理と同じ。

表象・・・旧訳では「象徴」（原文は **token**）。シンボル。また象徴的に表すこと。